

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方策	学校関係者評価書	学校関係者評価	
確かな学力	A	○授業で「わかる・できる(成就感・自己有用感)」を感じさせる ○基礎的知識・技能を習得させ、将来の生活や職業生活につなげる	①授業改善(わかる授業)と基礎・基本の定着 ②言語活動の工夫と言語能力の育成 ③学力向上につながる温かい学級づくり	学力向上のための組織的な校内研修体制づくり	①企画委員会(研究・キャリア教育)が学力向上およびキャリア教育推進の中心となる。 ②学習指導要領に基づいた言語活動の工夫の位置づけ	①生徒への授業評価アンケート[5段階評価](校内部会)「授業のめあてを意識して学習している」生徒＝全教科平均4.0 ①②学校評価アンケート「授業改善に取り組んでいる」肯定回答教員＝100% ①②考える力を養う学習形態の工夫＝全教科	全国学力・学習状況調査、県学力定着状況調査の結果と課題を全教員で共有し、学習指導要領にそって、手立ての何が、どのように必要かを整理し、「わかる、できる」を感じさせる授業改善をめざす。また、教科における全体指導と個別の支援・指導を行い個々の弱いところを補充していく。	・企画委員会が中心になって取り組む授業改善やキャリア教育の推進は、アンケート結果から、学力向上や学習意欲の向上などが認められます。これからも引き続き、教科における全体指導と個別の支援、指導の充実をお願いします。  ・家庭学習面では、家庭との連携を図り、家庭学習の定着につなげてください。	A	
				子どもにわかる授業づくり(授業づくりスタンダードの活用など)	①校内授業研と日常の授業改善 ②考える時間、活動の時間を十分とる。 ③温かい学級づくりの実現による学習意欲の向上	①学校評価アンケート「授業がわかりやすい」＝生徒肯定回答＝86%、保護者91% ①②生徒への授業評価アンケート[5段階評価](校内部会)「総合的にこの授業に満足している」生徒＝全教科平均4.3 ①②県版シート類の活用100% 全国学力学習状況調査生徒質問紙(3年生)「国語授業が好き＝70%、数学の授業内容はわかる＝80%」				授業改善(わかる授業づくり)を意識して教員が実践しているため、生徒も保護者も授業に対する認識の変化が見られる。次年度も生徒の考える力を伸ばす授業をめざし、考える時間、活動の時間のバランスがあり、個人思考、全体思考を促す授業を行う。
				学校全体で予習・復習(宿題)の質と量を高める取組	①家庭学習の手引きを活用した家庭学習の提示 ②次時の授業理解につながるキーワードやポイント、ノート準備の具体的な提示 ③家庭学習の定着を図る評価と取組(生徒会)	①学校評価アンケート「家で家庭学習、予習、復習する」肯定群90% ②学校評価アンケート「生徒が家で家庭学習、予習、復習する手立てをしている」肯定群90%				①学校評価アンケート「家で予習・復習をしている」生徒肯定回答＝78% ②学校評価アンケート「生徒が家で予習・復習などの学習に取り組めるような手立てをしている」教員肯定回答(技能教科担当も含む)＝80% ③生徒への授業評価アンケート[5段階評価](校内部会)「家庭で予習や復習、ふりかえりしている」生徒＝5教科平均4.0
豊かな心	A	福祉教育・体験学習を基盤とした「道徳実践力」の向上を図る	①道徳の時間で「知」を耕し、福祉教育・体験学習を通じた「道徳実践力」の向上 ②お互いを認め合い、思いやる心を育む教育 ③より良い人間関係づくり	①キャリア教育と道徳教育による豊かな心の育成に取り組む。 ①道徳の時間の指導案作成に全教員が関わる。 ②③温かい学級づくりを実現し、自尊感情、自己肯定感を高め、学力向上を推進する。 ③QU分析、体験的な学びの学習を通して、温かい学級づくり、集団づくり、いじめを生まない学級づくりを推進する。	・道徳の時間の生徒授業評価「道徳の授業は好きである」生徒＝全体の45% ・道徳の時間の生徒授業評価「道徳の授業は将来役に立つ」と思う生徒＝全体の70% ・香美市学力向上に関わる生徒意識実態調査「自尊感情」＝90% ・QU分析＝学級満足群全校生徒の75%	①道徳の時間の指導案作成および道徳授業(担任、副担任)に全教員が協働した。 ①②校内キャリア教育アンケート[4段階評価](4月、12月実施)の全項目の全校平均が4月に比べ12月が0.1ポイント向上した。 ③Q-Uアンケート結果では、学級満足群にいる生徒の割合は40%(全国35%)であった。	本校のキャリア教育(体験的な学習と活動)と道徳教育により、生徒に「やりぬく力、見通す力、コミュニケーション力、自分の道をきり拓く力」をつけていく。また、ゲストティーチャーの活用により生徒の価値観を広げ、よりよく生きる力に繋げる。	・福祉教育、体験学習を基盤とした実践的な取り組みは、キャリア教育や道徳教育において、豊かな心の育成に成果が出てくると思っています。地域の方々とも連携して継続してください。	A	
				①発達段階に応じて、体力、運動能力を高める、引き出す体育授業を工夫していく。 ②③基本的な生活リズムの定着が学力向上、運動能力、体力の向上に関わっていることを生徒にも保護者にも啓発する。	・生徒への授業評価アンケート(保健体育)＝肯定評価90% ・生活習慣調査等による運動、食事、睡眠の意識向上＝全体の85% ・朝食摂取率＝90% ・6時間以上の睡眠時間＝85%	①生徒への授業評価アンケート＝全校平均4.2 ①年間の体育授業を通していろいろな運動の楽しさや充実感を味わわせ、運動への関心、意欲および能力を引き出す工夫ができた。 ②③毎朝の健康観察の記録から、「6時間以上の睡眠」[1, 2学期学年平均]＝(1年97.9% 2年97.5% 3年96.5%) ②③同様に「朝食摂取率」＝(1年99% 2年95% 3年98%)	高知県のキャリア教育の3本柱の一つである「基本的な生活習慣」を確立させる。生徒が楽しく充実した学校生活を送り、それが自分の将来の社会的、職業的自立の根幹になることを家庭にも啓発し続け理解と協力を得る。また、長時間に及ぶDVD、テレビ等の視聴と健康被害や学習時間との相関関係を保護者にも理解してもらうよう情報発信の工夫を行う。			
健やかな体	A	生涯教育、生涯スポーツの観点から運動習慣の定着、体力向上の意識化を図る	①運動の楽しさと充実感を得る体育授業 ②授業(学力向上)や部活動に不可欠な生活習慣の定着 ③家庭における運動習慣の啓発	①生徒が勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神を持って公共の福祉と社会の発展に努める意識や態度を培うことができるよう体験的な学びを工夫、充実させる。 ②各種行事や教育活動の中で、生徒の「自己の役割を実行する力、自己改善する力、自己の生き方を考えることができる力」を引き出す実践を行う。	・キャリア教育アンケート12項目(自校実施)の全校年度末平均が3.3以上 ・キャリア教育アンケート項目(自校実施)のキャリアプラン能力⑩の全校年度末平均が3.3以上 ・学校評価項目「地域・保護者との連携」＝評価A	①学校評価アンケート「学校が楽しい」＝生徒肯定回答89%、保護者肯定回答84% ①②校内キャリア教育アンケート[4段階評価](4月、12月実施)の「自己の役割を実行する力、自己改善する力、自己の生き方を考えることができる力」が4月に比べ12月がそれぞれ0.1～0.3ポイント向上した。	学校評価アンケート「これから大柵中学校を良くするための意見の記述(生徒)」＝「地域との関わりを深くするため、行事とかも地域の人と一緒に取り組めるように工夫する」は、体験的な学習が本校の特色ある取組として定着し、よき伝統として生徒に浸透しているものと捉える。地域の一人としての自覚を持った生徒が、郷土を愛しやさしい心と素直な態度を持った人間となるよう今後も取り組む。	・基本的な生活習慣は、家庭との協力により、改善できていると思います。 ・体力面においては、能力に個人差、学年差があるように思います。体力、能力に応じた体育授業の工夫や、運動習慣の定着に向けた家庭への啓発をお願いします。	S	
				①当該生徒の成長、課題把握を組織で共有し、成長支援、課題解決につながる手立てを講じる。 ②QU分析等を活用し、温かい学級づくり、仲間づくりを推進する。 ③当該生徒および個別の支援を要する生徒の進路実現、社会的自立に向けた取り組み	・生徒の状況や課題に応じた校内支援委員会の実施 ・支援、配慮を要する生徒の視点に立った授業づくり＝全教科	①定期的職員会で支援・配慮の要する生徒を含めた生徒理解について、毎回、情報を共有した。生徒の様子から緊急あるいは慎重な対応案がある場合には、朝の職員朝礼で意思統一を図り報告、連絡、対応のレベルをあげた。 ①②支援、配慮を必要とする生徒、保護者と学級担任、SSWとの関係を保ち、組織としての取り組みの手立て等も意思統一した。 ③保小中で特別支援教育の連携を図るため物部地区特別支援教育連絡会をスタートさせた。	仲間づくり、学級づくりは学校づくりの基盤である。組織として支援、配慮の必要な生徒への個別の支援を含め、これまでの人間関係づくりの取り組みを維持、発展させる。また、支援、配慮の必要な当該生徒については必要に応じて関係機関担当者との協力も交え方策を講じ保護者と連携を図る。小中連携の機会を捉え、例えば、小中合同運動会などの場面で、小学校高学年とは、中学校スタイルの話し合い活動を取り入れ、次年度に向けた仲間づくりの土台を築くとともに、児童生徒間での相互理解に繋げる。			
保護者地域との連携	A	福祉教育・体験学習を基盤とし「郷土を愛し、未来を拓く香美っ子」を育成する	①体験的な学びを通して「自分を愛し、人を愛し、地域を愛することができる生徒」の育成 ②社会的自立・職業的自立につながる各教科の学習と体験的な学びによる学力の向上	①当該生徒の成長、課題把握を組織で共有し、成長支援、課題解決につながる手立てを講じる。 ②QU分析等を活用し、温かい学級づくり、仲間づくりを推進する。 ③当該生徒および個別の支援を要する生徒の進路実現、社会的自立に向けた取り組み	・当該生徒に対する課題把握や、解決に向けた対応は評価できると思います。今後も支援や配慮を要する生徒に対しての手立てを講じて、保護者との連携を図っていただきたい。	A				
				特別支援学級に在籍する生徒への支援、取り組みと、通常学級に在籍する個別の支援、配慮を要する生徒に対する取り組みを組織で行う。	①当該生徒の成長、課題把握を組織で共有し、成長支援、課題解決につながる手立てを講じる。 ②QU分析等を活用し、温かい学級づくり、仲間づくりを推進する。 ③当該生徒および個別の支援を要する生徒の進路実現、社会的自立に向けた取り組み		・当該生徒に対する課題把握や、解決に向けた対応は評価できると思います。今後も支援や配慮を要する生徒に対しての手立てを講じて、保護者との連携を図っていただきたい。			